

第三者評価結果

A-1 利用者の尊重と権利擁護

		第三者評価結果
A-1-(1) 自己決定の尊重		
【A1】	A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a
<コメント> 利用者本位や、個人の尊厳を守る支援を徹底している。利用者個々の持っている力をよく理解し、その方に合ったメニューを選んでもらい、作業や学習、余暇活動を行っている。利用者ができることは自分でやっている。自分でできた時や、他者に対し自発的に手助けをしたり、肯定的な声掛けがあった時等は、「できましたね」、「上手ですね」、「お手伝いできてすごいですね」等の声掛けを必ず行っている。一人ひとりの作業等は、本人に合ったものを選び、構造化等の取り組みにより、自立生活に向けた合理的配慮を行っている。		
A-1-(2) 権利侵害の防止等		
【A2】	A-1-(2)-① 利用者の権利侵害の防止等に関する取組が徹底されている。	a
<コメント> 個人情報の保護や苦情解決、虐待の防止、身体拘束の防止等、利用者の人権を守るマニュアルを整備し、法人内研修や会議等で、職員に周知、徹底している。虐待の防止に向け、具体的項目を掲げた「障害者を支援する職員へ」を、職員の目に付きやすい場所に掲示している。法人のコンプライアンス委員会からは毎月、職員の行動についての目標が届き、今月は「個人情報取り扱い強化月間」のポスターが掲示されていた。利用者のほとんどは落ち着いて過ごしているが、何かのきっかけで他害や自傷行為等が生じることがあるため、利用者の身体を職員が押さえることがあることを家族に説明し、同意を得ている。		

A-2 生活支援

		第三者評価結果
A-2-(1) 支援の基本		
【A3】	A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a
<コメント> 法人の理念「利用者が尊厳を持って自立できる地域社会の実現」を目指し、上履きに履き替える、上着を脱ぎ椅子に掛ける、手を洗う等、利用者は生活の中でできることは自分でやっている。職員は利用者を見守りながら、「できましたね」、「上手ですね」等、肯定的な声掛けを行っている。また、利用者が他者への心遣い、手助け等ができた時も、同様の声掛けを積極的に行っている。自分の思いを職員に伝えることができた時も、「伝えてくれてありがとう」と声掛けして、利用者の思いを受け止めている。利用者が自ら積極的に、コミュニケーションを図ることができるよう支援している。		
【A4】	A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	a
<コメント> 言葉でのコミュニケーションが困難な利用者には、文字やカードの使用、色を分ける等、職員が工夫して意思疎通を図っている。利用者個々のカード等は、職員が手作りで用意している。長期間、事業所を利用している方が多いことから、文字やカードだけでなく、表情や態度から、利用者の思いを汲み取っている。意思疎通が困難な利用者には、朝夕の送り迎えの際に、家族の意向を確認し、意向に添った支援を行い、利用者の様子を確認しながら関わっている。		

【A5】	A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>ピンク色が好きな利用者は、ピンクのトレーナーや髪飾りを付け、家族も本人の意思を尊重して衣服を選んでいる。職員との信頼関係を保ち、機能訓練等も本人の意思を確かめながら行っている。訪問調査時、職員が「足を曲げましょう」、「頑張っ」、「すごいです」等、声を掛けながら訓練を行っていた。食事の前の手洗いでは、「手洗いしましょう」と声掛けし、利用者が手を前に出すと、「手を出せましたね上手です」、「手を洗わせてもらっていいですか」等、声掛けし、本人の気持ちを尊重した関わりを行っている。利用者によりやすいよう、ひらがなを使った相談の仕組みのポスターを掲示している。</p>		
【A6】	A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>新たな仕事の依頼で、作業内容が増えた場合は、利用者の意思を尊重し、利用者自身に選択してもらっている。利用者のニーズに沿った支援を、個別支援計画に反映している。「ひまわり会(本人会)」では、利用者が集まり、余暇活動やレクリエーション等、何を行いたいかを話し合う場を設けている。利用者からは、車での外出の希望が多く、希望に添うことが難しいこともある。活動内容の検討については、個別支援計画見直しの時だけでなく、利用者の日々の活動の様子を確認しながら、常時検討する体制を整えている。</p>		
【A7】	A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>知的障害や自閉症スペクトラム(自閉症やアスペルガー症候群等が統合されてできた診断名)等、専門的知識を習得するために、職員が研修に参加し、職員間で内容を共有している。聴覚よりも視覚の方が理解しやすい特性を持つ利用者には、次に何をするか道筋が見えるよう、構造化による支援を行っている。利用者の問題行動については、場面や頻度を記録し、数値を基にした分析と対応による変化を考察している。下肢に障害のある利用者には、かかりつけ医からリハビリテーションの訓練メニューをもらい、職員が機能訓練を行っている。年齢よりも早く身体の老化が進んでいる利用者には、食事や生活面の介護を提供する等、個々の特性に応じた対応をしている。利用者は穏やかに、落ち着いて生活している。</p>		
A-2-(2) 日常的な生活支援		
【A8】	A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>一人ひとりの個別支援計画に基づき、心身の状況に応じた支援を行っている。昼食は外部に委託し、事業所内の厨房で温め、盛り付けして提供している。委託先との話し合いで、常食や刻み食、ペースト食等、利用者個々の状態に合った食形態で提供している。自力摂取が難しい方は職員が介助し、自分で食べる方には、その方に合った箸やスプーンを用意している。車椅子を使用し、介助が必要な方には排泄の介助を行い、自立している方には終了後に声掛けを行っている。食事や排泄、移動等は介助マニュアルを作成して支援している。介助マニュアルは毎年、必要に応じて、変更、更新を行っている。</p>		

A-2-(3) 生活環境		
【A9】	A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者それぞれの活動は、パーテーションを使用して、集中しやすい環境を作るとともに、スケジュールを通してそれぞれの一日の流れや次の活動を提示し、見通しが持てるよう、構造化された環境の中で行っている。活動に疲れた時には、休憩室や静養室等を活用しながら、無理のないよう行っている。また、活動場所も、利用者間の関係性に配慮し、グループ分けをして、安心した生活を送ることができるようにしている。</p>		
A-2-(4) 機能訓練・生活訓練		
【A10】	A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者それぞれのかかりつけ医から、機能訓練のメニューやアドバイスを受け、利用者の機能訓練を行っている。機能訓練を行うスペースを設け、ボール等を使って、職員が声掛けしながら訓練を行っている。ひとつのメニューが終わると、「頑張りましたね」等、声掛けして、次のメニューに取り組む意欲につなげている。開設当初から利用されている利用者の方もおり、身体機能の低下が見られている方もいるが、日中活動の中で可能な限り身体を動かす機会を意図的に設け、本人の身体機能の維持、向上を目指している。午後の活動の前には、全員でラジオ体操を行い、身体を動かしている。また歩行可能な利用者も、階段を利用した歩行訓練を行っている。</p>		
A-2-(5) 健康管理・医療的な支援		
【A11】	A-2-(5)-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者の日々の健康状態は、朝、家族に確認し、また、一人ひとりの健康状態を視診している。排泄の有無は活動日誌に記載し、職員間で共有している。加齢に伴う変化を確認するため、一定の年齢を超えた方や、加齢の速度が速いといわれるダウン症の方等は、「高齢障害行動チェック」表にて、毎年の変化を記録している。このチェックにより、健康状態、運動能力、日常生活動作、作業能力、コミュニケーション等を数値化し、利用者の変化を確認できるようにしている。事業所での活動中に、利用者の状態に変化があった場合は、配置されている看護師の所見を確認し、状況に応じて、家族へ連絡している。</p>		
【A12】	A-2-(5)-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	c
<p><コメント></p> <p>利用者のかかりつけ医と連携を取りながら、リハビリテーションのアドバイスや訓練メニューを確認し、事業所内で機能訓練を職員が援助している。服薬が必要な利用者には、家族から預かった薬を各フロアで確認し、昼食時に服薬介助を行っている。食事が終わると、介助する職員が「〇〇さん薬飲みます」と他の職員に伝え、他の職員は「お願いします」と確認して、誤与薬の防止に取り組んでいる。現在、日中に医療的ケアが必要な利用者はいない。</p>		

A-2-(6) 社会参加、学習支援		
【A13】	A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	b
<p><コメント></p> <p>重い障害を抱える利用者が毎日自宅から事業所に通ってくるのが、社会参加そのものであると捉えている。利用者が意欲を持って、作業や余暇活動、レクリエーション等を行えるよう、目標を見える化し、構造化を図っている。利用者は活動の見通しができ、混乱なく活動している。缶つぶし作業の方は、終わった段階でシールをもらい、シールをためて好きなジュースを買いに行くという目標を定めて、本人の楽しみにつなげている。トークン(記念品)を本人に提供する際には、称賛の声掛けを行い、社会的評価を受ける機会としている。町では資源物の分別回収を実施するにあたり町民の皆様より、ミックスペーパーを分別する際の紙袋が足りない、との声をいただいたため、古新聞紙を使ったミックスペーパー分別袋を、町内2か所の障害者支援施設に作成委託し、町内会館や町内のスーパー等で配布をし、地域の方の生活に役立っている。</p>		
A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援		
【A14】	A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>利用者は、家族との生活が中心となっている。事業所は日中活動の場を提供しているが、地域で行われるネットワーク会議に参加し、関係機関と情報共有と発信を行っている。地域の中で家族と過ごしたいという本人のニーズを考慮して、自宅の中で活躍できることという視点を持った支援を行っている。構造化(本人にとってわかりやすい環境)は、日常生活をより良くすることを考慮し、目的に応じて行っている。</p>		
A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援		
【A15】	A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a
<p><コメント></p> <p>家族との面談は、必要に応じて行っている。家族が朝の送りで来訪した際も、積極的に情報交換を行っている。利用期間が長く、家族の高齢化も進んでいるため、家族からは、今後の不安等の相談が多くなっている。土日曜日に家族が病気で倒れて入院し、利用者が2日間一人で家において、月曜の朝の迎えで状況を知ったこともある。法人内のショートステイを利用し、今は通所できるようになっているが、家族を含めた高齢化の問題が今後の課題となっている。</p>		

A-3 発達支援

		第三者評価結果
A-3-(1) 発達支援		
【A16】	A-3-(1)-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <p>生活介護事業所のため、評価外とする。</p>		

A-4 就労支援

		第三者評価結果
A-4-(1) 就労支援		
【A17】	A-4-(1)-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	c
<p><コメント></p> <p>生活介護事業所のため、評価外とする。</p>		

【A18】	A-4-(1)-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	c
<コメント> 生活介護事業所のため、評価外とする。		
【A19】	A-4-(1)-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	c
<コメント> 生活介護事業所のため、評価外とする。		